

第17回 日本免震構造協会賞 - 2016 -

第17回日本免震構造協会賞は、右の8件に決定した。

表彰制度の目的

免震構造等の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物等を表彰することにより、免震構造等の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞、技術賞、作品賞、業績賞、及び普及賞とする。詳細は表彰規程による。

表 彰

2016年6月8日

一般社団法人日本免震構造協会通常総会後

一般社団法人日本免震構造協会表彰委員会委員

川口健一（委員長） 安達 洋 丑場英温
篠崎 淳 細澤 治 真部保良 森高英夫
渡邊眞理

審査経過

応募者の思いと、審査側の思いにすれ違いが感じられるようになってきた。免・制震技術が普及するに従い、かつては表彰の対象となりえたエントリーも、審査委員の眼には特別な存在に映らなくなってきている。さらに年々増えている免・制震レトロフィットによる保存保全改修、大型プロジェクトへの適用なども、従来の賞の枠組みだけでは適切な顕彰が難しくなってきている。

そこで、当審査委員会は次年度以降に向けて「業績賞」の新設を提案することとした。保存保全の改修や、大型プロジェクトの技術などを業績として評価すると同時に、設計者以外の応募参加もしやすくするためである。

さて、本年度の応募件数と授賞数は以下ようになった。

技術賞4件応募 → 2件授賞

作品賞11件応募 → 4件授賞

普及賞4件応募 → 1件授賞

功労賞1件応募 → 1件授賞

技術賞は全件ヒアリング、作品賞は全件を現地審査を行った。技術賞受賞の2件は、共に過大な応募に対する制振技術である。接続型スイッチダンパーは単純確実な機構で設計者が積極的に技術開発に関わり実現させたという点が評価された。超大型TMDの開発は、既存超高層建築物を対象とし、懸垂式の大質量、外部電源の必要ないダンパー等との高度な組み合わせにより実現させている点が評価された。

本年の作品賞の内訳は、オフィス系ビル4件、改修・保存系関連3件、大スパン2件、公共複合施設2件であった。この内、延床50,000m²を超えるプロジェクトが6件と全般に大

選 考 結 果

第17回日本免震構造協会賞受賞は下記の8件である。

I 功労賞

1) 西川孝夫

II 技術賞

1) 既存超高層建物に適用可能な大地震対応超大型 TMD の開発

鹿島建設株式会社	栗野治彦	黒川泰嗣
	瀧 正哉	狩野直樹
	中井 武	

2) 巨大地震に対応する接続型スイッチダンパーの開発

株式会社安井建築設計事務所	安田拓矢
カヤシステムマシナリー株式会社	露木保男
THK 株式会社	村尾秀己
半田市役所	青木賢治
名古屋大学	福和伸夫

III 作品賞

1) 大阪駅大屋根

西日本旅客鉄道株式会社	前田 満	尼崎 隆
株式会社大林組	西村勝尚	新居 努
	北山宏貴	

2) 日本橋ダイヤビルディング

株式会社竹中工務店	浜田勇氣	星野正宏
-----------	------	------

3) 静岡県草薙総合運動場体育館 このはなアリーナ

静岡県知事	川勝平太
内藤廣建築設計事務所	内藤 廣
鹿島建物総合管理株式会社	箕浦達也
KAP	岡村 仁 桐野康則

4) 品川シーズンテラス

大成建設株式会社	大畑克三	岩井昭夫
株式会社 NTT ファシリティーズ	牛垣和正	松本泰樹
	中川明徳	

III 普及賞

1) 通天閣における既存鉄塔建造物の免震改修工事の実施
(敬称略)

型のものが多かった。免震が9件、制震が2件であり、従来型基礎免震は2件、他7件は中間階や柱頭免震を採用することで、エキスパンションジョイントの数を減らすなどの工夫をしているものが多かった。意匠や計画上の配慮の高いものも多く、最終審査時においても意匠系の審査委員とエンジニアリング系の審査委員の評価は必ずしも一致しなかった。最終的には総合的な得点の高い作品が残ったといえる。

普及賞には市民への高い露出度と普及効果のある通天閣の免震レトロフィットが選ばれた。

功労賞には西川孝夫前会長（首都大学東京名誉教授）の推薦があり、全会一致で認められた。

今回は全体的には非常にレベルの高いエントリーが多く、審査委員泣かせの年であった。また、前述の応募部門とのマッチング問題を考えさせられるものも複数あった。「業績賞」設立の暁には、今まで別部門の選に至らなかったプロジェクトの再応募も可能である。次回以降も多数の応募を期待したい。
(川口健一)